



自前でサーバを管理する必要がないため、運用が簡易になりました。
SuperStream-NXは非常に安心できる仕組みです



株式会社ザ・ワークス

システム要員確保が難しいからこそ最適な“持たない仕組み”
快適なレスポンスで現場入力も可能にする SuperStream-NX



会社概要

本社
東京都港区西新橋3-2-1

従業員数
約140名(2011年3月現在)

Webサイト
http://www.theworks.co.jp/

資本金
1,000万円

事業内容

- テレビ・ラジオ番組、ビデオソフト、コンピュータソフト、コマーシャルの企画制作、販売及び輸入業務
- レコード、音楽テープ、ビデオの原版の企画制作及び販売
- 映画・演劇の企画制作
- 著作権、商標権、意匠権、取得及び管理業務他

導入ソリューション

- SuperStream-NX 統合会計 (GL、AP、AR)

導入パートナー

- キッセイコムテック株式会社



キッセイコムテック株式会社



Interviewee

五十嵐 宏氏
株式会社ザ・ワークス
取締役

導入の背景

顕在化したシステムが老朽化し、
新たな仕組みへの刷新が必要に
芸能事務所などを傘下に持つ渡辺プロダクションの映像部が独立する形で、1984年に設立された株式会社ザ・ワークス。バラエティやドラマなど様々なジャンルの番組制作を手掛けており、日本テレビやTBS、フジテレビなど民間放送における系列の中心となる在京キー局をはじめ、全国に点在している地方局やBS放送局など様々な放送チャンネルに番組を提供している。日本の番組制作会社はテレビ局からの依頼で番組制作を行うのが一般的だが、同社は企画から制作まで自社にて番組作りを行うことで、著作権を有したコンテンツを数多く制作。コンテンツの二次利用も視野に入れたビジネスモデルを採用するなど、欧米型のスタイルを取り入れた制作会社として業界でも不動の地位を築いている。

そんな同社が会計システムの仕組みを新たに刷新したのが2012年4月、以前から活用してきた会計システムは10年ほど経過しており、システムの老朽化が顕在化。新たな環境に移行するためにシステムの刷新を余儀なくされたのだ。

導入前の課題

代理店の変更で揺らぐ信頼関係、
時代にそぐわない環境からの脱却を目指す
以前の会計システムでは、親会社の強い意向による国産パッケージが選択され、グループ全体で活用していた。特に専任のシステム要員が不在の同社にとって、システムメンテナンスや保守などシステムに関連した業務はサポートを請け負う代理店に任せており、サポート企業との信頼関係は重要なポイントだったと取締役 五十嵐宏氏は当時を振り返る。しかし、2009年になって先方都合で急遽別のグループ企業にサポート業務を移管することがわかり、その様相は一変

する。

「代理店とはこれまで何でも相談できる関係でしたが、担当していただける企業が変わったことで要望などが出しづらい状況に。信頼関係を再構築することが難しい状況に陥ったのです。」

また、会計システムが稼働している環境が老朽化したことで新たなPCの手配を検討した五十嵐氏だったが、現在手に入るOSでは会計システム自体を大幅にバージョンアップしなければならなかった。

「バージョンアップするためには、新規に購入するのと同程度のコストが必要になることがわかったのです。時代にそぐわない現在の状況から脱却しないわけにもいかず、新たな仕組みを検討することになりました。」(五十嵐氏)
さらに機能面では、取引先や番組ごとに割り当てている管理コードの桁数が限界を迎えていたという事情もあったという。

「我々は番組単位で損益を把握するようにしており、管理コードが番組ごとに必要です。また、フリーランスが数多くの活躍するテレビ業界だけに、10年も使えば4桁しかない取引先コードではとても足りない状況になっていました」(五十嵐氏)

システム選定と導入

管理負荷及びイニシャルコストを
大きく軽減できる「SaaS」に期待

新たな仕組みの前提となるのは、複数企業がグループ管理できるような機能を持っていることだったと村岡 茂氏はそのポイントを語る。

「業界特有の事情ですが、複数の局をまたがって同じ時間帯に番組を手掛けることは、テレビ業界ではご法度です。そうなった場合は、別会社を作って対処するのが一般的。そんな経緯で立ち上げた企業が当社にも複数社あるため、統合的にグループ管理できる機能が大前提だったの

